



# ペチャクチャ カナダ人

英語指導助手/アシュリー・ペトゥルッチ

## An Ode to Green Tea

Before my arrival in Japan, I considered myself knowledgeable about tea. In my home city of Calgary, I frequented tea shops, which specialized in “teas from abroad”, particularly Chinese, African, South American, and English. Oh yes, I even knew a thing or two about green tea, having spent many years consuming green tea in teabags, from Starbucks, of course.

However, an amazing thing happened, which forever changed my green tea palate. I moved to Japan. I learned that green tea was much tastier in loose form, rather than the teabags ingeniously marketed by Western companies. I learned the flavour differences between 玄米茶 (my favourite)、煎茶、and 抹茶。I also learned about the quality differences between expensive and inexpensive green tea.

Much to my dismay, upon returning to Calgary last summer, I went for tea. Naturally, I ordered green tea and since I found myself in Canada, the tea arrived in teabag form. As I took my first sip, I was horrified! The taste was TERRIBLE. I had no choice but to toss my tea in the garbage. From that moment onwards, I realized that green tea in Japan is truly special and that as a self-proclaimed tea snob; I can never drink the western version, ever again.

## 緑茶に捧げる

日本に来る前は、自分はお茶に詳しい、と思っていました。カルガリーでは、お茶専門店によく行ったものです。中国、アフリカ、南米、イギリスなど、海外のお茶を扱う店でした。緑茶のことだっただけでちょっとは知っているつもり。何年も飲んでいましたからね。まあ、スタバ（※スターバックス=コーヒー専門スタンド店）のティーバッグですけど。

それなのに、日本に来たらびっくりするようなことが起きて、私の緑茶に対する味覚というものはずっかり変わってしまいました。それは欧米でよく出回っているティーバッグではなく、茶葉で飲むほうがはるかにおいしいと知ったことです。玄米茶とせん茶、抹茶の味の違いもわかりました。高いお茶と安いお茶の品質の違いも、です。

昨夏、カルガリーに帰ったとき、お茶を飲みに行きました。自然と緑茶を注文したら、カナダのことですから、またティーバッグが出てきました。ひとすずりして、ぎょっとしました。ひどい味です。ゴミ箱に直行するしかなかった。そのとき悟りました。日本の緑茶は本当に特別なもので、自称「違いのわかる茶飲み人」としては、二度と欧米の緑茶は飲めないな、と。

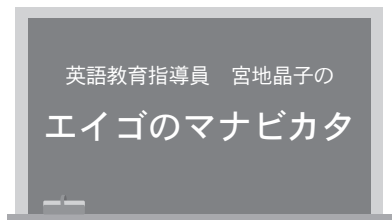
(訳：宮地晶子)

## 【ちょっと豆知識】

お茶と言えば結構どこの国に行っても似たような言葉だと思ったことはありませんか。というのも、ポルトガルが広東省のマカオから茶を運んだ国では、その現地の言葉から「チャ」と言い、オランダが福建省アモイから茶を運んだ国ではその方言から「テー」と言うようになったからです。

フランス、スペインなど、ヨーロッパの多くの国では、「テ」という言葉で定着しています。世界的に「チャ」か「テ」を使わない国は本当にわずかです。ということはどこに行っても、どちらかを叫べば、とにかくお茶が飲めますね。

先日、テレビでおかしな名前の暗記法をやっていた。その名も「鶴の恩返し勉強法」。脳科学者の茂木健一郎氏が昔からやっている暗記法です。なぜ、そんな変な名前がついたか、というと「鶴の恩返し」で「つづ」が「誰も見ないで」と言ったように、集中しているところがあまりに「スサマジ」くて誰にも見せられないのだそうです。と言いつつ、その姿を実際にやってみせていました。目が、なんのことはない。目で見て、手を動かし、音読するという方法です。茂木さんは2時間、テレビ収録にもかかわらず、なりふり構わず集中して、韓国語の初歩を習得してしまいました。



## 第50回 鶴の恩返し勉強法

話変わって…、私は授業でよく小テストをします。その直前に教室に行くと、室内は「シーン」としています。じつと教科書とにらめっこの生徒が多い。でも結果はさんたんたるありません。目で見て分かったつもりになっても、実際は案外できないものです。そこで、授業中は意味の確認が済んだら、すぐ音読そしてつぶやきながらの指書きをさせています。指書きとは、人差し指で覚えたい単語をひたすら書くことです。そして直後にすぐ穴埋め問題をやります。ほとんどの子が満点を取ります。確実に効果が分かるので3年生になった生徒も真剣にやります。こういう勉強法を家でもガムシヤラにやってみてほしいなあ、と思います。ちなみに茂木さんは小学校のときからこのやり方で暗記し、その集中力もすさまじかったとか。また「赤毛のアン」の大人ファンで、高校の時には意味が分からなくても原書で読んでいたそうです。最後には、とうとうその意味が分かるようになったそうです。